

施策評価シート(令和2年度実績評価)

施策の基本情報

政策No	0305	政策名	芸術文化の振興	施策主管課	文化財課	課長名	平野 克則
------	------	-----	---------	-------	------	-----	-------

政策の目指す姿	地域の歴史や文化、先人に誇りを持ち、芸術文化に親しんでいます						
---------	--------------------------------	--	--	--	--	--	--

施策No	04	施策名	民俗芸能の伝承	関係課名			
------	----	-----	---------	------	--	--	--

施策の目指す姿	民俗芸能への理解が深まり、伝承活動を活発に行っています						
---------	-----------------------------	--	--	--	--	--	--

現状と課題

- 【現状】
- ・市内には、ユネスコ無形文化遺産に登録された早池峰神楽をはじめとして、数多くの民俗芸能が各地域に伝承されていますが、多くの団体において少子高齢化等による後継者不足が進んでおり、伝承に苦慮しています。
 - ・民俗芸能団体からは、伝承への意識づけと練習するきっかけとなる披露の機会を増やしてほしいとの意見があります。
- 【課題】
- ・地域の民俗芸能保存会と共に、民俗芸能を継承する人材の確保・育成策を検討する必要があります。
 - ・民俗芸能を発表・披露する場を増やす必要があります。

前年度の評価の振り返り

前年度評価時の今後の方向性

- ・小中学校へ民俗芸能団体を派遣し、児童生徒に鑑賞してもらう事業を行う。
- ・民俗芸能団体との意見交換会は、平成30年度は団体の代表と、令和元年度は若い伝承者と行ったが、芸能によっては中心となる年齢の違い(例 さんさ踊のように子どもが中心)や活動の時期が限定(例 お盆の念仏踊)されるものもことから、芸能毎に意見交換会を開催し、後継者確保と伝承に有効と思われる方策を考える。

反映状況

- ・市内4校に民俗芸能団体を派遣し、児童生徒への「出前授業」として民俗芸能へ直接触れる機会を提供した。(鹿踊り3校、神楽1校)
- ・民俗芸能団体との意見交換会は、学校のクラブ活動や地域のスポ少として活動している団体の指導者と市文化財保護審議会委員により開催した。

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組

- (1) 民俗芸能の伝承支援
- 民俗芸能団体の活動状況の調査と要望に応じた支援
- ・学校のクラブ活動や地域のスポ少として活動している団体の指導者との意見交換会の開催
 - ・楽器や衣装の新調・修理に要する経費に対する補助制度の創設を検討(R3より事業化)
- 民俗芸能の発表の場や伝承活動の場の確保
- ・小中学校での民俗芸能鑑賞会の開催(4校)
 - ・郷土芸能鑑賞会等の公演活動は、コロナ感染拡大防止のため中止
 - ・公演会情報等の市民へのPRの推進
 - ・公演活動は、コロナ感染拡大防止のため中止

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方	成果指標の測定方法	単位	区分	H29	H30	H31	R02	R03	R04
郷土芸能団体数	地域ぐるみで伝承・保存に努めることが重要であることより、地域で実際に郷土芸能伝承や保存活動している状況を表す指標	花巻市郷土芸能保存協議会、花巻地方神楽協会、花巻市文化団体協議会の加盟団体より把握する。	団体	目標値	96.00	96.00	96.00	96.00	96.00	96.00
				実績値	96.00	96.00	96.00	96.00		
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
A	<p>成果指標「郷土芸能団体数」・・・【達成度a】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R2はコロナ感染拡大防止のため、発表の機会がほとんど無く、また、練習のため集まることもままならなかったが、地域に伝わる民俗(郷土)芸能を残していこうとする伝承者の強い意識により、団体が消滅することなく活動が継続されていると考える。 ・コミュニティ会議において、用具購入費の補助や活動費を助成するなど、民俗(郷土)芸能団体の活動を支援している。

4 施策を構成する事務事業の検証

市民のニーズや市の関与の必要性が低下した事業、 投入コストの割に成果が低い事業、 施策への貢献度の低い事業はないか
なし
施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか
<p>(民俗芸能支援事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校での民俗芸能鑑賞会「出前授業」の実施校数を増やす必要がある。 ・コロナ禍にはあるが、伝承者のモチベーションを維持するため、発表・公演の場の創出が必要である。 ・用具等の新調や修理に要する費用を補助し、費用面から伝承を支援する必要がある。
新たに取り組むべき事業はないか
<p>(民俗芸能支援事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用具等の新調や修理に要する費用に対する補助

5 施策の総合的な評価

課題
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達に民俗芸能へ興味や関心を持ってもらうため、学校の行事や授業の一環として民俗芸能に児童生徒が直接触れる機会を増やす必要がある。 ・コロナ禍により、発表・公演の機会が著しく減少したほか、練習もできず活動に不安を抱えている団体が相当数あると思われるため、まずは、発表の場をつくる必要がある。 ・民俗芸能団体の課題の一つとして、用具や衣装にかかる費用負担の重さをあげている団体もあることから、その経費に対し助成する制度が必要である。
今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や文化祭で地域の民俗芸能を体験するほか、「民俗芸能の出前授業」の実施校を増やすよう学校に働きかける。 ・コロナ感染拡大防止を図り、郷土芸能発表会等の公演を開催する。 ・活動に必要な用具の修理や新調に直接要する経費に対する補助制度を新設する。

施策を構成する事務事業一覧

No	事務事業名	担当課	施策への貢献度		
	事業内容(活動実績)		対象	意図	成果
			直結度		
010	民俗芸能伝承支援事業費	文化財	一致	直結	B
	小中学校での民俗芸能鑑賞会(4校)、民俗芸能団体(5団体)と市文化財保護審議会委員との意見交換会の開催。郷土芸能鑑賞会等の公演は、コロナ感染拡大防止のため中止				